

平成8年3月

研究課題番号：06304046

老人看護領域におけるクリニカルスペシャリストの標準指導書の作成

—平成6・7年度 科学研究費補助金 総合研究（A）—

報告書

はしがき

高齢化に伴い、老人の保健医療福祉のニーズは増大している。特に後期高齢者の割合が高くなるにつれて看護の果たす役割は重要となる。個々の支援のあり方が老人とその家族のADLを大きく左右するが、老人とその家族の健康と自立の状態や生活のあり方は様々であり、きわめて難しい看護判断が求められる。また、老人の保健医療福祉は多様な場で、また、様々な専門職との協力によって行われるので、ケースマネジメントの能力も求められる。

本研究は、老人看護領域での上述した看護の人材育成の必要性にもとづいて、1993年に日本看護系大学協議会の提案した「修士課程におけるクリニカル・ナース・スペシャリスト（CNS）育成のための教育課程試案〔中間報告〕」の考えにそって、老人看護領域におけるクリニカルスペシャリストの標準指導書の作成を試みたものである。

日本において老人看護学の専門教育がはじまってから日が浅いので、修士レベルのスペシャリストの教育内容を明確にする必要があった。また、きわめて文化的背景の影響をうける看護領域であるので、日本の老人保健医療福祉の状況の中でスペシャリストにも求められる能力を検討する必要があった。

共同研究者の構成であるが、上記の必要性をふまえ、老人看護教育の現状の理解の面から、またそれぞれの研究者の老人看護学における研究領域の面から、老人看護と老人看護教育を多面的に検討できるような研究者構成とした。

クリニカルスペシャリストの標準指導書の作成は、きわめて現実的な課題である。老人看護領域のスペシャリストに求められる能力のあるべき論、それを育成するための専門的な理論基盤、教育システムの現状とのきびしいつき合わせがなくてはならない。本研究での主要な討論はこれに費やされた。

本研究の成果の一郎は日本看護系大学協議会平成5年度専門分化検討委員会から出された「専門看護婦（士）養成のための修士課程におけるカリキュラム」老人看護専攻教育課程に活かされた。本研究の成果が活用され、しかも早く老人看護領域での専門看護婦（士）の認定の条件が整備されることを願っている。

また本研究の討論をとおして、老年看護の研究が実態調査のみにとどまり遅れていること、また老年看護の理論の開発、発展がみられないことが確認された。看護のスペシャリストの教育を支える理論基盤の形成をすすめていくために、本研究グループは老年看護学会の設立に向けて努力し、平成7年11月に日本老年看護学会が設立された。このこともまだ本研究の成果と位置づける。

（研究代表者 野口美和子）